

「ムササビを飛ばそう (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「飛ぶムササビの型紙」は、一見ミスボラしいものだが、実は何度も試作品を作って「教材研究」をした結果の産物である。WEB上にもムササビの型紙はいくつか存在する。しかしいずれも、パーツ数が多く、製作に時間がかかり、2年生の子どもには難しい。逆に、型紙通り完全に作れば、「必ずよく飛ぶ」ものが出来上がる。「それでいいのでは？」と思うかも知れないが、それではダメなのだ。以下のような条件が大切だと思う。

- ・ 1枚の画用紙にモノクロ印刷できること。
- ・ パーツは1つ。多くても2つ。
- ・ ただ切り抜いて試しただけでは、簡単には飛ばない。何らかの工夫が必要。
- ・ 追加の型紙さえあれば、家でも簡単に「もう一匹」作れること。

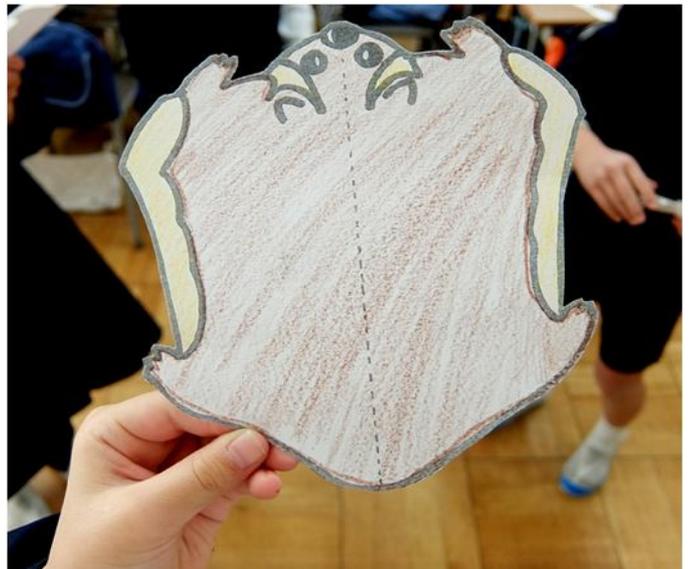
こうした発想で作った型紙で、ちっともかわくないので、きっと子どもたちには不評だろうと思っていた。しかし、配布してみると「かわいいー!!」と大好評。私の説明なんか、ろくに聞かないまま、さっそく「飛ぶムササビづくり」にとりかかっていた。



まずは色塗り。色は飛び方とは関連がない。しかし、少しでも本物のムササビに近づけようと、図鑑を見たり、友達に聞いたりして塗っている。こういう作業は、2年生の子どもは、もともと大好きなのだ。



続いて切り抜き。「はさみの位置はあまり変えずに、紙のほうを動かす。」というコツを教えたら、どの子どもも上手に切り取っていた。切り取ったあとは、裏面に名前を書く。「逃げたムササビ」が、確実に手元に戻ってくるように・・・ということだ。



色塗り・切り抜きが終わったところ。こういう段階で「先生、できました!」と、必ず見せに来てくれるので有難い。まずは、このまま飛ばしてみる。当然、普通の画用紙と何ら変わらないので、そのままヒラヒラ床に落ちるだけだ。このあと、しっぽをつけて、ムササビの体の形状に工夫をくわえないと、うまく滑空してくれない。面白いのはここからだ。(つづく)